

都市政策研究所
ニュース

THE NEWSLETTER OF INSTITUTE FOR URBAN AND REGIONAL POLICY STUDIES

平成24年度の始まりに当たって思うこと

「経済一流、政治三流」という、半ば自虐的で揶揄するかのよな言葉が懐かしい。最近の日本を見て世界の格付けマニアは、どちらも数段階下げたに違いない。

政治、特に国政の混乱にはもう慣れっこになってしまったが、私たちには笑って見ている余裕はない。政治家が本来果たすべき政策課題の発見や解決に向けた機会をいたずらに逃すばかりか、官僚までも翻弄し萎縮させて、必要な政策の立案や実行を遅らせ、内容も歪めてしまう。そのことが、結果的に我が国経済の回復を遅らせ、国際競争力を低下させ、国民の自信と希望まで奪ってしまう。東日本大震災の復興にも影を落とし、被災者は政治の混乱の最大の被害者であろう。

政策は、権限と財源を基盤に形成される。国政の混乱は、権限と財源の適正配分を損なう。つい数年前に高らかに謳われた「地域主権」の言葉とは裏腹に、実質的分権は進まず国への権限集中が進み、財源不足の政府は際限のない借入を続けている。税と社会保障の一体改革が論議されているものの、将来世代の負担を無視した現在世代によるパイの奪い合いでしかない。この国は、いつまでこういうやり方を続けていくのだろうか。

いま、政治改革や行財政改革と共に、国民の意識改革が求められている。そして、あらゆる国の仕組みの立て直しが求められている。立て直す際の基本的視点の一つは、間違いなく、道州制のような強い権限と財源を持つ広域自治体を受け皿とする分権だろう。累次の地方分権推進会議や地方制度調査会などが地方分権の推進や道州制の導入を強く提言した

のも、現在のような東京一極集中、国への権限集中を放置すれば、日本の閉塞状況を打開できないと判断したからではなかったのか。

敬愛する（坂本）龍馬さんの目指した方向とは逆なので恐縮だが、日本各地に特色ある広域自治体を形成し、世界から人・モノ・カネ・情報を集められるような社会体制を早く築き上げることが必要だ。グローバル化と知識基盤社会の時代を生き抜くには、広域自治体が主体となり、域内の知的基盤を強化して高度人材を育て、自然・景観・文化面での魅力を創出して人を惹きつけ、産業基盤を再編・強化して海外と活発に交流できる仕組みをつくらなければならない。

この際、道州制と地方分権を積極的に進める運動を、初心に立ち返って進めるべきではないだろうか。基礎的自治体としての市町村が重要なことは当然であるが、豊富な地域資源を活用できる広域自治体が不可欠である。そして、域内の住民や企業と手を組み、知恵を出し合い、価値を創造する新しい地域社会の仕組みを築くことが急がれる。

そういう新しい社会の仕組みづくりには、今一度「日本を洗濯」する志と地域再生の夢を持った無私の人材、幅広い分野で高度な知識を持つ人材、創造的な人材が多数必要になる。そして、将来の地域像を明確に描き、着実に実行できる戦略的政策が必要になる。そのとき、地域の実態を知る地方の公立大学は、人材育成や政策立案の面で、非常に重要な社会基盤となる。都市政策研究所も、地域再生の一翼を担いたいと願っている。

（都市政策研究所長 古賀 哲矢）

ものづくりの“魂”を伝えたい

国際産学官連携によりベトナム・ハイフォン市の裾野産業を育成

都市政策研究所 教授 吉村 英俊

今最も注目されている国の一つに『ベトナム』があります。北九州市は 2009 年 4 月、ベトナム・ハイフォン市*1 と「友好協力協定」を締結しました。この協定にもとづいて、財団法人北九州国際技術協力協会(KITA)と北九州市、本学の都市政策研究所が協働して、ハイフォン市の中小製造業の育成を図ることになりました。なお実施にあたっては、ハイフォン市においても産学官によるチームをつくっていただき、それぞれが強みを活かして目的達成に向け精励いたしました。

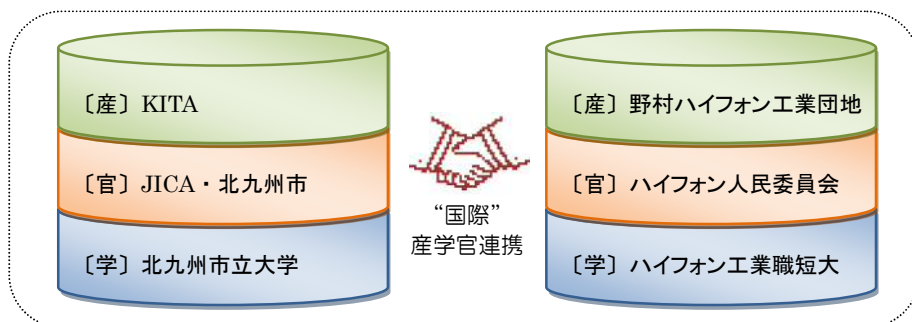
初年度の 2009 年度は、それぞれの都市の企業のニーズや意向を調査し、基本構想としてまとめ、両市の合意形成を図りました。調査の結果、両市の企業は機械部品や鋼材などの金属加工分野において、相互に委託（受託）製造を行いたいことが明らかになりましたが、ハイフォン市の多くの企業においては、未だ旧式の工作機械を使った低品質な部品しかつくることができず、また納期の遵守や設備の保全など、工場管理の面においても多くの問題を抱えており、現状のままでは取引を実施することができないことが分かりました。

そこで翌 2010 年度は、ハイフォン市企業の製造技術力と工場管理力の底上げを図るために、基本計画を作成し、独立行政法人日本国際協力機構(JICA)の草の根技術協力事業*2に申請・採択（実施機関：KITA）されました。具体的には、製造技術力及び工場管理力の向上を図るために、ハイフォン市の工業職短期大学内に「相談窓口」を設置して、各種相談に応じるとともに、北九州市から専門家を派遣して積極的に問題解決を図ることにしました。さらに工場管理力については、同じく工業職短期大学で「生産マネ

ジメント」の講義を学生や社会人に対して広く行うことがより多くの人材を育成する最良の方法であると考え、まずは講義ができる先生を北九州市で育成することになりました。

以上を実施計画としてまとめ、2011 年度から 2013 年度までの 3 ヶ年の予定で展開することにしました。それぞれの年度の目標は、2011 年度「試行」、2012 年度「定着」、2013 年度「自立」です。

2011 年度は、まず 4 月に KITA とハイフォン市の工業職短期大学との間で「相互協力協定」を締結し、「相談事務所」を同大学内に開設しました。次に 7 月に相談事業の利活用を促進するためにセミナーを開催し、さらに専門家による工場診断を行いました。8 月には同大学の先生 5 名を北九州市に招聘し、「生産マネジメント」の研修（2 週間）を行いました。9 月には 7 月の工場診断企業及び 8 月の受入研修のフォローアップを行いました。本年 2 月には新規相談企業の工場診断及び 7・9 月工場診断企業のフォローアップ、同大学による生産マネジメント講義の聴講と助言を行いました。この間、相談窓口のスタッフが 28 社・延べ 34 回訪問し、15 件の相談を受け、さらに専門家が 26 社・延べ 30 社の工場を診断し、5 件の提案を行いました。また生産マネジメントにおいては、同大学において正規科目として採用され、2 月 7 日から機械科と電気科の 2 年生を対象に 45 コマの講義として開始されました。これは当初の予定よりも半年早いものでした。このように関係者の熱意と努力によって、1 年目としては上々の成果を生み出すことができました。



プロジェクトが始まって2年9ヵ月が経ち、ハイフォン市を訪問した回数は8回に上りました。この間の努力が実り、ハイフォン人民委員会からプロジェクトの順調な経過を大変評価していただき、教育分野、とくに大学間の連携にも取り組んで欲しいと強く要望されています。またNHK殿がわれわれの取り組みに興味を持っていただき、幸いにも去る3月16日、ドキュメンタリー番組「ASIAN PASSION ～アジアを駆ける日本人～」*3で大きく取り上げられました(4月1日再放送)。

[注]

1. ハイフォン市；首都ハノイの西方、約110kmに位置する人口185万人(第3位)のベトナム屈指の工業・港湾都市
2. JICA 草の根技術協力事業；NGOや自治体、大学等が経験や技術を活かして企画した途上国への協力活動をJICAが支援し、共同で実施する事業。事業期間・3～5年間
3. ASIAN PASSION ホームページ；
<http://www.nhk.or.jp/fukuoka/asian/index.html>
(※本号第4面のトピック②も合わせてご覧下さい)



「相互協力協定」締結式
前列左:KITA、右:ハイフォン工業職短大
出典:西日本新聞、2011年4月15日



オートバイのホイール工場の操業度向上についてアドバイスをを行っているところが地元新聞に掲載されたもの。Phap Luat, 2011年7月19日
相談内容は設備管理から省エネなど、多岐に亘っていますが、人気があるのは投資を伴わずにコストダウンやチームワークの向上が図れる5S(整理・整頓・清掃・清潔・躰)です。



生産マネジメントの講義を、ハイフォン工業職短期大学の先生方に対して行っているところ
場所:JICA九州国際センター
期間:2011年8月1日(月)~13日(土)
休日は小職のゼミ生と一緒に門司港レトロや環境ミュージアムなどを観光しました。わっしょい百万夏まつりに参加したことがとても楽しかったそうです。



工場診断の様子
この企業は金型を設計・製作するにあたって、加工精度や納期遵守に課題を抱えていました。7月に最初に訪問して以来、4回訪問しました。この間、5Sを導入指導し、工場内は見違えるほどに綺麗になりました。元々技術者だった社長は、われわれの助言もあって、現在経営の勉強を始めています。

事業日誌 (2012年1月～3月)

■研究会など

- ・地域づくり研究会 (1/28、3/31)

■講演、シンポジウム、学会など

- ・まちのにぎわいづくり成功事例セミナー「Jリーグクラブとの協働による“まちのにぎわいづくり”」(北九州市雇用創造協議会: 1/27)
- ・第2回みやこ町まちづくり勉強会(福岡県みやこ町: 2/4)
- ・産学交流サロン「ひびきのサロン」(北九州産業学術推進機構: 2/10)
- ・サステナブル都市再開発促進モデル事業第3回タウンミーティング(九州ヒューマンメディア創造センター: 2/23)
- ・「スポーツでもっと幸せな街へ。ギラヴァンツ北九州激励会」(ギラヴァンツ北九州を支援する市民会議: 2/26)

→ 右欄「トピック①」参照

- ・遠賀川と中間の歴史を学ぶ講座(中間市地域交流センター: 3/10)
- ・ロシア CIS・中央アジア ビジネスセミナー「北九州市とロシア・チェリアビンスク州との経済交流の可能性」(3/19)

■出張

- ・ベトナム・ハイフォン出張: 工場診断&生産マネジメント人材育成支援(2/5～14)

■本研究所への視察

- ・佛教大学(1/23) ・和歌山大学(2/7)

■新聞報道(専任教員のコメント掲載)など

- ・毎日新聞 1/20 3面「本紙全国調査 道州制 知事は静観 政令市長は前向き」、同26面「道州制導入機運高い九州 住民と政府に発信を 南博・北九州市立大学准教授」
- ・西日本新聞 2/14 北九州京築版「どうするキタキュー 成熟都市への羅針盤<1> マイナスイメージ」
- ・西日本新聞 2/15 北九州京築版「どうするキタキュー 成熟都市への羅針盤<2> スタジアム」
- ・NHK 総合 3/16 「アジアン・パッション ～アジアを駆ける日本人～」
→ 右欄「トピック②」参照

都市政策研究所資料室・新着図書

- ・世界の潮流 2011年版 II
- ・平成23年版 労働経済白書
- ・平成23年版 厚生労働白書

トピック

① 「スポーツでもっと幸せな街へ。ギラヴァンツ北九州激励会」を開催しました

ギラヴァンツ北九州を支援する市民会議(ギラヴァンツ北九州後援会、北九州市立大学都市政策研究所、北九州市の3者で構成)は、Jリーグ2012年シーズン開幕直前の2/26(日)、ギラヴァンツ北九州激励会を開催しました。第1部はサガン鳥栖前監督の松本育夫氏による基調講演「地域とともに歩むクラブ運営」、第2部はギラヴァンツ北九州の全選手・監督・社長等が登壇し市民・経済界・行政の代表が激励を行う激励会で、約250人の参加者(登壇者及びスタッフ除く)により大いに盛り上がりました。なお、会場においてはパネル展示「北九州市立大学都市政策研究所 ギラヴァンツ北九州に関する研究結果(2008～2011年度)」を行いました。

(都市政策研究所 准教授 南博)

② NHK 総合『ASIAN PASSION ～アジアを駆ける日本人～』でベトナム・ハイフォンでの取り組みが放映されました

この番組は、アジアの今の姿を浮き彫りにするとともに、アジアを舞台に自分の夢に向かって走り続ける日本人の底力を伝えるものです(NHK・HPより)。撮影は2月8日から14日の間に行われました。初めての経験でしどろもどろしてしまいましたが、3月16日の放送を見て、ハイフォン市企業が試行錯誤しながらも頑張っている様子やわれわれの取り組みが少なからず伝えられたのではないかと思います。私自身、今後とも両国及び両地域の発展のために微力ながらも努力していきたいと思います。最後にNHK取材班及びハイフォン市企業のみなさま方に心からお礼申し上げます。

(都市政策研究所 教授 吉村 英俊)

※2012年4月1日付の大学事務局の組織改革に伴い、都市政策研究所の事務を取り扱う部局が「国際・地域交流課 研究支援係」へと変更になります。なお、教員組織や事務室の連絡先等の変更はありません。

[編集・発行]

北九州市立大学 都市政策研究所

〒802-8577 北九州市小倉南区北方 4-2-1
Tel: 093-964-4302 Fax: 093-964-4300
E-mail: toshiken@kitakyu-u.ac.jp
URL: <http://www.kitakyu-u.ac.jp/iurps/>

NEWSLETTER No.60

4.1.2012

INSTITUTE FOR URBAN
AND REGIONAL POLICY STUDIES,
THE UNIVERSITY OF KITAKYUSHU,
KITAKYUSHU CITY, JAPAN